

JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



カシオペア・プロジェクトの塩田専門家とニャンガ専門家、そしてチレンジェー一次レベル病院のマコワネ薬局部門長、州保健局のチシャ薬剤師が、チレンジェー一次レベル病院の薬局を巡回中。

日本政府、
コレラ対策に追加支援

チレンジェFLH薬局部、
在庫管理にタブレットを
導入

フォト・フォーカス



JICA、コレラ対策に追加支援



コミュニティのボランティアが、ヒーローズ・スタジアムコレラ治療センターを手伝う様子。

ザンビア政府がコレラの発生を発表した2023年10月以来、JICAカシオペアプロジェクトは、病院管理能力の構築を支援してきている、5つの一次レベル病院(チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニヤマ、マテロ)に対して、技術支援を行ってきました。その後、支援は保健省とともに、ルサカ市のヒーローズスタジアムに開設された、コレラ治療センター(CTC)へと拡大されています。

この支援には、保健省へ提供した1,600,000クワチャ相当を超える医療消耗品が含まれています。これは、コレラの発生当初から、コレラ対策に強い関心を寄せていた日本の協力で実現しました。

プロジェクトの法月チーフアドバイザーは、ザンビア政府のコレラ対策を支援します、と述べました。プロジェクトは、保健省と一次レベル

病院、および郡保健局等との連携を継続しています。ルサカ市でのコレラ症例の増加に伴い、マテロ地区にあるヒーローズスタジアムが、治療の中心となっています。

携帯用酸素濃度計や体温計などの医療用品、医療従事者用のプラスチック製椅子やテーブル、経口補水ポイント(ORP)を担当する地域ボランティア用のエプロン、症例管理用のさまざまなポスターや標識などがプロジェクトから提供されました。

コミュニティのボランティアが、ヒーローズ・スタジアムコレラ治療センターを手伝う様子。



カシオペア・プロジェクトで支援された椅子。ヒーローズスタジアムのCTCで使用しました。



上:カシオペアプロジェクトによって支援された酸素計。ヒーローズ・スタジアムのCTCで使用されました。
下: タンバタンバ氏、法月チーフアドバイザー、アイダ・ズル氏



上:ヒーローズスタジアムのCTCで用いられた感染予防の標識
下:ヒーローズスタジアムのCTCで椅子にラベルを貼る法月チーフアドバイザー



日本の国立国際医療研究センターから 感染予防管理の短期専門家を迎える

プロジェクトは、日本の国立国際医療研究センター（NCGM）から派遣された、感染予防管理（IPC）看護師の萩原悠氏を短期専門家に迎えました。この派遣の目的は、プロジェクトが病院管理運営能力の向上のために協力している5つの一次レベル病院（チャワマ、チャレンジ、チパタ、カニヤマ、マテロ）で利用されているIPCの実施手順を評価することでした。

萩原短期専門家は、5つの病院を訪れ、各病院の環境衛生技官（EHT）と協力して、IPCの実施手順と現状との差異を確認しました。そして、病院がIPCの実施手順を導入し、強化する際の指針となる標準作業手順書（SOP）案を、チャレンジ病院IPCチームとプロジェクト専門家と協働して作成しました。萩原氏は、プロジェクトの協力により各々の病院が実践した対策を見て勇気づけられたと述べています。サービス提供後の患者の状態をより良くするには、IPCを実践する標準化された方法が全ての医療施設で必要ですと述べました。



写真1: 萩原短期専門家、ニャンガ専門家、ブワリャ氏。

写真2: 萩原専門家がチャレンジ一次レベル病院を巡回。



5つの第一次レベル病院、感染症予防管理（IPC）実施のための標準化フォーマットを導入

チパター一次レベル病院は、チャレンジ一次レベル病院での実践に続いて、感染症予防管理のチェックリストを全部門に導入しました。2023年9月に、プロジェクトのニャンガ専門家の支援により、対象5病院の中で、チャレンジ一次レベル病院が初めてIPCラウンドで使用するチェックリストを導入しました。このチェックリストは、プロジェクトが支援している病院の全ての部門で、感染予防管理の手順が遵守されるようになることを目的としています。

ウシバントゥ環境衛生技官（EHT）と感染管理チーム（ICT）（EHT、シラムヨバ医師、フィリIPC看護師で構成）が協力して活動を開始し、毎週各部門を巡回して、改善や修正が必要な項目を確認しています。各部門から選出された感染予防管理リンクパーソンとともに、感染管理チームはチェックリストを用いて、IPCの手順の遵守状況を確認し、各部門が手順を遵守できるよう新しいアプローチを見つける支援を行っています。

ウシバントゥ氏は、自身が主導したチェックリストが活用されることを期待しています。様々な観点から、病院全体が、どのようにしてIPCの実践手順の遵守に取り組んできたかに触れています。ニャンガ専門家も病院の実情に合わせて標準化されたチェックリストの活用によってもたらされるサービスに可能性を感じ、他の施設でも採用されることを期待しています。チャワマ一次レベル病院もまた、このチェックリストを使い始める予定で、カニヤマ一次レベル病院とマテロ一次レベル病院でもIPCラウンドを開始するために協議を進めているところです。



写真上: サンドラ・シラムヨバ医師、ウシバントゥ氏とニャンガ専門家

写真下: ノゴマ看護師、フィリ看護師とニャンガ専門家



チレンジェー一次レベル病院薬局、 在庫管理にタブレットを導入

2024年1月22日、プロジェクトは、チレンジェー一次レベル病院に2台のタブレットを貸与し、プロジェクトの塩田専門家が、薬剤部と共に、施設で毎週行われる巡回に電子デバイスを導入しました。

タブレットは在庫管理だけでなく、施設内、各部門での薬局の巡回にも使用される予定です。

マコワネ部門長と薬剤師たちは、在庫の管理だけでなく、頻繁に処方される医薬品や、薬局から調達される医療消耗品の傾向を、各診療部門と把握、連携するために巡回をしています。

それまでの薬局は、各診療部門の薬剤を把握するのに、紙のチェックリ

ストを使っていました。今回、薬局と巡回行為の両方にタブレットを導入することで、薬剤師は病院全体の在庫管理、各診療部門の状態や消費傾向のデータを容易に収集し、彼らが日々蓄積している所見と照らし合わせるができるようになります。



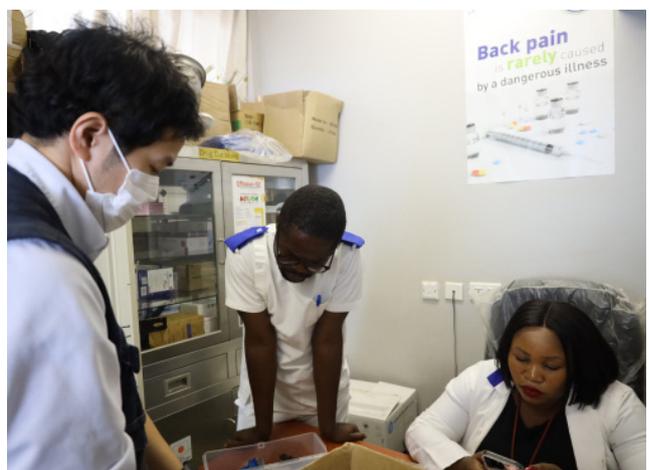
写真1:塩田専門家のとマコワネ部門長、チシャ薬剤師、ニヤンガ専門家



写真2:チレンジェ1次レベル病院での薬局巡回中の塩田専門家、マコワネ部門長、ンゴマ看護師

写真3:薬局巡回中の塩田専門家とチシャ薬剤師、マーガレット・ハナブルラ看護師

写真4:薬局巡回中の塩田専門家とマコワネ部門長、ンティンガ看護師



フォト・フォーカス



チレンジェー次レベル病院のリチャード院長とニャンガ専門家と萩原短期専門家



法月チーフアドバイザー、JICA本部から黒部氏、ヒーローズ・スタジアムコレラユニットのジンバ氏、ニャンガ専門家



カニヤマー次レベル病院のムニヤマ氏と、ニャンガ専門家と一緒にヒーローズ・スタジアムのコレラ治療センターでのIPC巡回中



チレンジェ1次レベル病院で薬局巡回中のチシンバ部門長と塩田専門家



ヒーローズ・スタジアムのコレラ治療センターの倉庫部門で寄付品の在庫を確認する塩田専門家



チャワマ1次レベル病院でIPC評価を実施している萩原短期専門家、ニャンガ専門家、プワリャ氏 (EHT)



ヒーローズ・スタジアムのコレラユニット トリアージ部門で、ズルー看護師とニャンガ専門家

編集・デザイン: コンベ カパタモヨ

編集: 緒方 敬

編集長: 法月 正太郎

連絡先

法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane, Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101, ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)